

アイゴの摂餌特性に対応したクロメ母藻移植時期の検討

水産試験場

【研究のねらい】

磯焼け海域での藻場の回復には母藻や幼芽の移植が有効な手段ですが、本県沿岸域では、魚類（アイゴ・ブダイ）の食害により回復が阻害されます。そこで、アイゴの摂餌特性に対応した母藻の移植時期について検討しました。

【研究の成果】

- 1 アイゴのクロメに対する摂餌率は11月上旬から極端に低下し、12月にはほとんど摂餌しなくなることが明らかになりました（図1）。
- 2 アイゴの摂餌率は26～29℃の範囲で最も高くなり、20℃以下ではクロメをほとんど摂餌しないことが明らかになりました（図2）。
- 3 比井湾の磯焼け海域において、10月に移植したクロメ母藻は（写真1）、12月上旬には30%が食害により消失しましたが、12月に移植したものでは食害を受けることが無く、全て生残しました（表1）。

【成果の活用面・留意点】

磯焼け海域へのクロメ母藻の移植は、水温が20℃以下に低下する12月頃実施することでアイゴの食害を受けることがなく、食害対策を省くことができます。ただし、2年目以降については母藻・幼芽を含め食害対策を実施する必要があります。

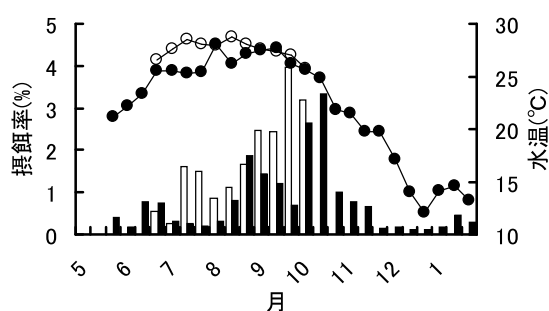


図1 試験筏におけるアイゴのクロメ摂餌率の変化

摂餌率(%) = 摂餌量(g) / 魚体重(g) × 100
 摂餌量 = アイゴの摂餌による1日間の消失量(旬平均値)
 □ H16摂餌率 ■ H17摂餌率 ○ H16水温 ● H17水温

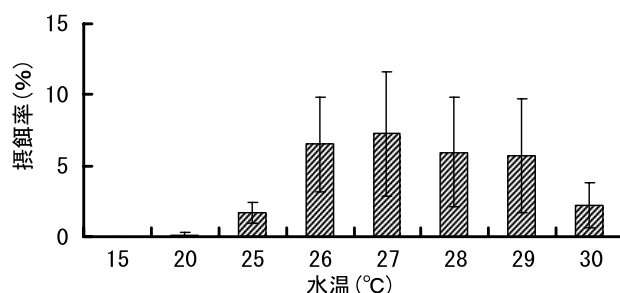


図2 アイゴのクロメ摂餌率に対する水温の影響

摂餌率(%) = 摂餌量(g) / 魚体重(g) × 100
 摂餌量：アイゴの摂餌による1日間の消失量(7日間の平均値)

表1 移植時期別クロメ生残状況

調査月日	生残個体数	
	10月移植	12月移植
10月27日	10	—
12月7日	7	10
12月20日	7	10
1月26日	7	10

10月移植：10個体(10/27移植)

12月移植：10個体(12/7移植)



写真1 比井湾に移植したクロメ母藻

(問い合わせ先 TEL：0735-62-0940)